

令和2年8月23日 9:00~13:00

<開会>9:00

生涯学習課菊池

それでは皆さんおはようございます。たくさんお集まりいただきまして、ありがとうございます。図書館ワークショップ一般編ということで、最初のスタートということでございます。ご案内の時間が9時から開会ということでしたが、皆さん早くお集まりいただきましたので、5分ほど早いんですけども、早速、始めさせていただきますということでございます。よろしくお願いいたします。

改めまして、図書館ワークショップ「みんなではなそう未来の図書館」にご参加をいただきまして、大変ありがとうございます。今、花巻市では、新しい図書館をつくらうということを行っております。このワークショップでは、今後、10年、20年先、その先まで、利用していただくために、皆さんから、こんな素敵な図書館が欲しいというたくさんの、ご意見をちょうだいしたいということでございます。こうして、準備段階から、皆さんに携わってもらうことで、できあがる新しい図書館、きっと皆さんに愛着を持って、利用してもらえるんじゃないかなと期待しております。まずは、開催に先立ちまして、花巻市生涯学習部長の市川からご挨拶を申し上げます。

生涯学習部長

皆さんおはようございます。先ほど司会が申しましたとおりですが、本日は図書館のワークショップに参加いただきまして、大変ありがとうございます。感謝申し上げます。ここ花巻図書館ですが、昭和48年の建設でして、今年で47年目、というような状況でございます。この会議室も狭くて大変申しわけないんですけども、閲覧室が、二階にあるけど、エレベーターもない、また、書庫などスペースも不足してきているというような状況で、もう10年ぐらい前でしょうか、平成23年にですね、新しい図書館をつくらうと、「市民懇話会」という会がつくられまして、その皆さんでワークショップも当時開催しまして、基本的な案を市に提案するというようなことがございました。平成25年には、新しい図書館の基本計画というものができ上がりました、これは厚生病院の跡地、今の総合花巻病院が新しくできたあの場所につくる、という案だったんですね。それは子供の施設と一緒につくるという計画だったんですが、実は平成26年設計に入った段階でしたが、有害物質が検出されて、まだその当時は岩手県が管轄する土地でした。その土地の土壌を入れかえたりするという作業に、数年かかるということになりまして、都市計画等の関係から、やはりあの場所は図書館ではなくて、総合花巻病院を移転したほうがいいんじゃないかということで、結果的に図書館の計画は、白紙になってしまったという状況でございました。平成29年には、また新しく、懇話会のときに提案された提言書に基づきまして、基本構想をつくりました。平成29年8月です。そのときも市民の皆さんからパブリックコメント、意見交換会、各団体からもお話を聞いたりして、基本構想が29年の8月にできまして、新しい図書館を移転しましよ

う、という概要は決まったというようなことでございます。これから具体的に今年度基本計画をつくっていきたいと考えておりまして、その中で前のワークショップは23年、ほぼ10年経ているということなので、やはり、もう1回、ワークショップなどで市民の皆さんの意見を聞くべきではないかというようなこともありまして、先月からは高校生と20代の皆さんに意見を聞いております。あと、今回、皆様方には、一般編ということで、各界から代表をいただいておりますし、公募の皆さんも含めまして、さまざまな意見、アイデアをもらえればなというふうに思います。その中で、基本計画、図書館の具体化を図ってというふうに、考えておりますので、これからですね5回、日曜日でございまして、大変皆様方にはご負担をおかけすることになりますが、ぜひ良い図書館を、これから何十年先を見越した、新しい図書館をつくっていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

生涯学習課菊池

ありがとうございます。ちなみに進行の私は生涯学習課の菊池と申します。今日はずっと進行させていただきますのでよろしくお願いいたします。それでは、本日のタイムスケジュールということで、ちょっと時間割を、皆さんのほうに説明して、その他の説明もしてから、プログラムのほうに入っていくことにしたいと思います。タイムスケジュールなのですが、皆さんの資料お手元の黄色い表紙のですね、資料の3ページにも詳しく書いてございますけども、ざっと説明していききたいと思います。まず、本日のテーマなのですが、皆さんで図書館に行ってみようというテーマにしております。まずは、市内の図書館の現状、花巻図書館と東和図書館と設定しておりますけども、市内の図書館の現状、そして、基調講演ということで、最近の図書館の状況をお話いただくという予定になっております。まず1回目は、皆さんで、見て聞くということを目的に開催したいなということで考えております。そういうことで次回のグループワークのご参考にしていただければなということでございます。日程のほうですが、これからですね、開会行事終わりましたら、まずは、花巻図書館見学ツアーということで、皆さんに見ていただくということを予定しております。20名ちょっとお集まりなのですが、2班に分かれて見学したいと考えております。特に班分けはしてないんですが、ここから半分でもいいのでしょうか。そういう感じでいききたいと思います。それが大体9時50分ぐらいということで、50分ぐらいに、次の東和図書館に移動したいと、移動はバスを準備しております。ただし、ご都合等で自分で移動されたいという方は、それはそれで結構ですので、十分に気をつけて東和図書館のほうまでお越しいただければと思います。予定としましては、10時10分ぐらいに東和図書館のほうに到着という予定になっております。そして東和図書館でも、同じように、見学ツアーということで、10時10分から11時ぐらいまでになりますが、途中休憩なども含めまして、ツアーを開催したいと思います。そして、11時から12時まで1時間になりますが、基調講演ということで、富士大学の早川光彦教授にお願いしてございます。早川先生につきましては、東和図書館の見学も一緒に見たいなということでしたので、そこらご一緒いただくと予定しております。そして、12時からまた

こちらのほうに、バスで移動してきて、解散というようなスケジュールになっております。なお、その他注意事項等々ですが、ワークショップで、我々のほうで写真とかですね、カメラとかすみません撮らせていただいております。後ほどですね、ホームページとかで、ご紹介したいというふうに思っておりますので、ちょっと写りたくないなというところがありましたら、撮らないでとおっしゃっていただければいいのかなというふうに思います。それから花巻図書館も東和図書館もなんですが、どちらの会場もですね、コロナ対策での利用というふうになっておりまして、今もそうなんですが、換気などをしながらですね、開催するということで進めております。皆様にはマスクの着用ということで大変ありがとうございます。それから手洗いとかですね、しっかり、ご自分でお願いしたいというものです。それから、事務局では特に準備をしておりますけれども、飲み物等々ですね、各自とっていただいて、熱中症対策もお願いしたいというものです。それでも途中具合が悪いとかですね、気分が悪いよというのがありましたら、遠慮せずに、どうぞ我々スタッフのほうにお声掛けいただければなというふうに思います。よろしく願いいたします。ここまで何か、ご質問等々ある方いらっしゃいますか。

意見

(参加者)

今日初めてね、大事な会議の第1回目のワークショップということで、ここに皆さん、20数人ですか、お集まりになってるようですけれども、私はほとんど初対面の方が多く、どういう団体の方、あるいは公募の人たちはどういう方なのかですね、これから5回にわたって大事なビッグプロジェクトの話し合いをするに当たって、やっぱり、その辺も、交流の材料にしたいと思いますので、考えておいてください。自己紹介というんですかね。あるいは業界、という業界の人が来てとか、関係機関ですか、そういうのも教えてください。

生涯学習課菊池

はい。ありがとうございます。皆さんのお名前お顔ということでしたので、資料の1ページにも、あいいうえお順なんですけれども、名簿も載せてございます。どうでしょう、もしよければなんですが、お名前だけでも自己紹介していただくといいことでもよろしいですか。せっかく早く始めましたので。ではお名前をこちらのほうで呼びますので、その場で立っていただければと思います。1番からお願いいたします。

(名簿順で紹介)

ありがとうございます。はい。それでは花巻図書館のツアーのほうに移っていきたいと思います。図書館ツアーのほうはですね、説明は花巻図書館の梅原館長と、久保田副館長から、説明ということです。よろしくお願いいたします。

<花巻図書館見学>9:15~

花巻図書館長

おはようございます。花巻図書館館長の梅原と申します。今日はご参加いただ

きまして、ありがとうございます。先ほど市川部長も申し上げましたとおり、花巻図書館は昭和 48 年の開館ですので、もう 47 年経過してしまっていて、施設も古いですし、狭い感じの建物ですけども、その中でも蔵書が 19 万 7000 冊ほどございます。狭い中にたくさんの本が詰まっておりますので、ちょっと窮屈な感じの図書館になっていますが、これから皆さん、次回から 4 回にわたって、これからの図書館についていろいろな意見を交換されると思いますので、今日この図書館そして東和図書館の現状をご覧ください、ワークショップに活かしていただければなと思います。今日はよろしくお願いします。今日は私と副館長の久保田と 2 班に分かれて、ご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

私の班は、最初に会議室についてご案内します。

●会議室

- ・花巻図書館では、映画会やおはなし会など、いろいろな事業を、月に三、四回開催しているのですが、ここを会場にしています。お子さん対象のイベントは、カーペットを敷いて、カーペットの中にお子さんと一緒に入っていただきます。今は新型コロナウイルス感染症対策の関係で人数を制約しておりまして、10 人～13 人まででソーシャルディスタンスを保ちながら事業を行っています。ちなみに今日は 10 時から「休日ほっと映画会」を開催します。では次に移動します。

●入口等 1 階全般

- ・ブックポストがあり、休館日や閉館してからも本を返せるようになっています。
- ・IC ゲートは図書館にある本や CD など貸し出しするものには全て IC タグがついており、手続きをしないとゲートで手続きを促すアナウンスが流れるようになっています。
- ・今は新型コロナウイルス感染症対策で入口に体温の測定器があります。
- ・バリアフリーコーナーとして受付を設置しています。この建物はエレベーターがないため、インターホンを設置し職員を呼び出せるようになっています。できる限り利用者の方のニーズに沿えるよう職員がお手伝いしますが、やはり完全なバリアフリーの建物ではない（エレベーターがない）、というところがこの施設の課題の一つです。
- ・学習室と新聞室があります。こちらも新型コロナウイルス感染症対策で密にならないように座席を減らしています。また、何かあった際にご連絡できるよう、お名前と連絡先（電話番号）を記入いただいています。

●階段昇降機

- ・階段の上り下りが困難な方のために昇降機を設置しています。安全ベルトもあり、安全性には問題がないのですが、怖いとおっしゃる利用者さんもいます。ただ、何回かご利用いただいて慣れてきた利用者さんにはよくご利用いただいています。

●資料室（視聴覚ライブラリー資料保管室）

- ・視聴覚ライブラリーは保育園や子供会など団体が事業で利用できるように DVD

やビデオなどの資料を貸し出ししています。全部で1,175本の資料があります。普段は一般の利用者があまり入らない場所ですので、現在は新型コロナウイルス感染症対策のため閲覧席などで減らした椅子を保管しており窮屈になっています。視聴覚ライブラリーの資料リストはHPまたは窓口（カウンター）で確認可能です。冊子もあります。

- ・官報など行政資料も置いています。

●郷土資料室

- ・宮沢賢治、高村光太郎、新渡戸家に関する資料や、花巻史誌、南部藩の歴史書、行政から送られる統計書や地区で作成された郷土史などを保存している部屋です。全部で約12,500冊の蔵書があります。
- ・換気扇が1箇所と出入口を開けるだけの部屋なので、現在は入室制限をしており、1人ずつ使っていただいています。
- ・この部屋の資料は1冊しかないものが多いため、館内で見ていただいています。2冊以上ある資料の場合は、1冊は貸し出し可能としています。
- ・例年の夏は、賢治祭がある9月くらいまでは、観光でいらっしゃった方が賢治記念館に行ってから花巻図書館にも立ち寄られ、この部屋の資料を見ていかれることが多いです。

●新聞資料室

- ・新聞12紙取っているうち、永年保存は岩手日報、岩手日日、朝日新聞、河北新報の4紙。それ以外は1年保存です。4紙は昭和20～30年代から保存しています。朝日新聞の復刻版は明治21年からあります。（明治21～22、明治45年～大正6年、昭和11年～）この部屋は冷房がなく、換気も悪い部屋ですので、現在は室内での閲覧は行わず、資料を2階の閲覧コーナーに運び、そこで見ていただいています。
- ・ご覧のとおり狭い部屋ですので、保管スペースが年々厳しくなってきました。
- ・新しい図書館の建設を見据えて、新聞の電子データもありますので、どういった保存をしていくか、皆さんからのご意見をいただければと思います。

●こども室

- ・約18,000冊が並んでいます。絵本が多いです。
- ・普段だと一人5冊までの貸し出しですが、新型コロナウイルス感染症対策の関係で現在は10冊まで借りることができるので、普段よりたくさん本が借りられており、本数が少なく見えています。
- ・新型コロナウイルス感染症対策で現在は奥のカーペットのスペースをあまり使っていない状況ですが、通常時はお母さんとお子さんが並んで座って読み聞かせをしたりする様子も見られます。
- ・除菌ボックスは今までなかったのですが、感染症対策で設置しました。返却された本は除菌剤を含んだふきんで表面を拭いてから書棚に戻していますが、心配されるお客様もいらっしゃいますので、自由に使っていただけるように、先月か

ら除菌ボックスを設置しています。

●自動貸出機

- ・現在は新型コロナウイルス感染症対策でご利用いただけません。

●図書検索機

- ・現在、新型コロナウイルス感染症対策のため、タッチペンを貸し出しています。

●インターネット用パソコン

- ・3台ありますが、密を防ぐため現在1台のみ使用可能としています。
- ・キーボードやマウスなど利用者が使ったものは、その都度消毒してから次の方に使っていただいています。

●図書閲覧スペース

- ・座席数を減らし、机には仕切りを設置しています。
- ・混んでいるときは1時間を目安に使用時間を決めています。
- ・閲覧した資料は本棚に戻さず、かごに入れてもらい職員が除菌をしています。
- ・新着雑誌に関しては現在はカウンターそばに置いていますので、閲覧したい方は職員にお声がけいただくようにしています。
- ・配架は日本十進分類法に則って分類しています。書棚が足りなくなっている部分を簡易的な書架で補っている状態です。
- ・漫画の選書は司書が行っているほか、今子どもたちに読まれている本を調べたり、リクエストをいただいたりする場合があります。(本の選書も司書)

●閉架書庫

- ・約50,000冊保管しています。
- ・学校など団体に貸出する本やボランティア団体にお貸しする大型の本もここに置いています。
- ・「閉架」というと入れないのではと思う方もいらっしゃると思いますが、2階（書庫1階）はカウンターにお声がけいただければ自由に入っていただけます。
- ・前回の若者向けのワークショップで閉架書庫に入りづらいという意見をいただきまして、書庫に関する掲示をしましたが、入り口付近にもっとわかりやすい表示をするために、現在掲示物を作成して周知する準備をしています。

<東和図書館見学>10:20～

東和図書館長

●全体について

- ・平成17年12月に開館し、平成18年1月に合併しました。1か月間だけ東和町の図書館として開館しました。当時の町長が自分の任期中に図書館を建てたいという熱意を持っており、平成16年11月～平成17年6月まで「おらほの図書館を考える町民ワークショップ」を5回開催し、その中の1回は、当時先進的な図書館として、石鳥谷町立図書館、川崎村立図書館、千厩町立図書館の見学も行いながら、良いところを取り入れていきました。特に川崎村立図書館を参考にさせていただいています。東和町の目指す図書館像ということで、「開かれた滞

在型図書館」、「町の情報拠点」、「町の顔をもった図書館」をイメージし、建てられました。

- ・木造平屋建てで、もともとあった東和町情報センターに接続して、図書館部分を新しく建て増ししています。全体で 1,389 m²となっています。喫茶を含み複合施設になっています。柱は集成材で準耐火構造になっていますが、震災の時、柱が頑丈だったため、揺さぶられたとき壁材が剥がれ落ちる被害がありました。書架も木製で全体的に木のぬくもりを感じ落ち着きのある雰囲気になっています。
- ・天井が高く、書架と書架の間も人が両側に立っても車いすが通れるぐらいの広さを取っており、書架も低めで見通しがよく、広さを感じてもらえるようなつくりです。
- ・閲覧用のソファはコロナ対策のため一部撤去しています。
- ・配架は十進分類法を基本としていますが、子どもさんの様子をみながら料理の本を選んだりしやすいように料理の本や子育て等の本を手前に配置しています。
- ・図書館棟は床暖となっています。震災時、新しく作った図書館棟と、もともとあった情報センター側との接続部分が、お互い離れようとしてしばらく大きな隙間が出来たりしていました。今は落ち着き隙間が空くようなことはありません。

●児童コーナー

- ・児童コーナーがひとつの特徴の図書館となっていて全体の 3 分の 1 くらいを児童コーナーに充てているので、子育て世代の方から好評いただいています。
- ・児童書は、並べたとき、背だけではその本の魅力を感じてもらいづらいので、できるだけ表紙を表にして並べられるような書架を工夫しています。
- ・ねころびコーナーでは、大型絵本などを親子で広げて楽しめるように靴をぬいで座ってゆっくり楽しめるスペースになっています。

●ヤングアダルトコーナー

- ・ヤングアダルトコーナーはその世代のそれぞれの興味や能力に合わせて、資料を選べるように児童と一般の間に設置しています。

●新着コーナー、企画コーナー

- ・文化施設連携として東和にある萬鉄五郎記念美術館の企画展等にあわせ、関連資料の展示貸出を行っています。
- ・季節等に合わせた企画展も開催しています。
- ・若者対象のワークショップで閉架書庫をオープンにという意見がありましたが、当館は、解放できるようなつくりになっていないので、ワークショップ後、さっそく閉架書庫にある資料を表にだして紹介し、展示貸出をしています。

●管理棟（元情報センター側）

- ・ギャラリースペース

廊下部分をギャラリースペースとして、個人の作品やグループでの制作作品の展示スペースとして、一般の方に一月単位で貸出しています。

- ・談話室

現在、コロナの関係で利用不可としていますが、夏休み期間限定で学生さんの学習のためだけに開放しています。普段は、飲食可能で、何方でもご利用いただけるスペースになっています。大きなテーブルでは少人数のグループで会合などしていることもありました。

- ・視聴覚室兼会議室

約 100 人収容可能で、大型のスクリーンを備え、映画会や会合などで利用しています。現在、コロナの関係で図書館事業のみの利用となっています。

- ・喫茶

個人の方に許可を出し、スペースを喫茶店として運営してもらっています。

<基調講演>10:50~

生涯学習課菊池

ご案内ですと、11 時からということだったんですが、見学が若干早めに終わったので、始めさせていただきたいと思います。それでは改めまして基調講演ということで始めさせていただきたいと思います。このワークショップのアドバイザーとして富士大学から早川先生にお越しをいただき、早川先生に、図書館の可能性だったり、さまざまな事例なども含めて、お話をいただくことで、お願いをしております。早川先生のプロフィールを若干ご紹介したいと思います。皆さんお手元の黄色い表紙の資料の裏表紙になりますけども、先生のプロフィール、載せております。早川先生ですが、宮城県は仙台市のご出身、現在は花巻市のほうに住まわれていると。そして川崎村立図書館、現一関市立川崎図書館の主任司書として、設立にかかわりご活躍をされ、2004 年からは、福島県の南相馬市立中央図書館の新設に尽力された後、副館長として、お仕事をされています。その後 2011 年、東日本大震災を、南相馬図書館でご経験されています。そして 2014 年からは、現職富士大学のほうで、図書館学の教授ということでご活躍をされているということになります。簡単ではございましたがご説明させていただきました。それでは、ご講演いただきます。早川先生、よろしくお願いいたします。

早川教授の基調講演

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました富士大学の早川と申します。よろしくお願いいたします。本日私に与えられた役割ですが、これからワークショップ、何回かにわたって行っていきますけども、私の役割はですね、皆さんが、これからワークショップでいろいろ、話をしやすいように、アイデアを出しやすいような話題提供が僕の役割というふうに思っていますので、今日のお話、それを重点にお話を進めさせていただきます。最初に資料の確認を行います。今日、話の内容はこちら、先ほど配った A4 の、「みんなで話そう未来の図書館、図書館ってどんな場所」という資料です。あと本日お配りした「図書館計画ハンドブック」ですね。これについては、皆さんが何回かご参加されて新しい図書館の理想を皆さんで出し合って、こんな図書館がいいな、こんな図書館を目指していきたいというとき

にですね、何もないとなかなか大変ですので、ちょうど私がお手伝いして作ったものなので、参考的なものとして使っていただければと思います。図書館をつくるっていうのは、花巻でも 50 年に一度あるかないかの一大プロジェクトですので、今からお話ししますけども、新しい図書館って、やはり、誰でも、経験したことのない、わからなくて当たり前っていうところからですね、今日お集まりの皆さん、図書館に関心のある方、あと市役所ですね、一緒になって学び合って理想の図書館を目指していくというところがすごく重要かなって考えてますので、よろしくお願いいたします。

先ほどご紹介いただきましたけども、私は生まれ育ち仙台市の泉区です。旧泉市です。旧泉市で育って合併されたんですよ仙台市に。合併された年に娘が生まれて、合併されたのが非常に悔しくてですね、それで娘に「いずみ」っていう名前をつけてるんですけども、娘の歳を数えると合併してから何年経ったかわかります。自治と図書館って非常に密接な関係があります。それからお話いただきましたように、川崎村に行きました。34 歳で来ました。その時、村の職員がこんなふうに言ったのを今でも覚えています。「5000 人の過疎の農村でも、情報の過疎地からの脱却がありえなければ人口の過疎からの脱却はありえないんだ」と言っていました。もう一つ、行って間もなく、これ、役場の職員ですよ。こういうふうに言っていました。「人が集まるところに知識と情報が集まって、知識と情報が集まるところに、人が集まるんですよ」って言われました。なんて志の高い自治体なんだろうと思いました。あとは、川崎村出身で伊藤勇雄さんっていう詩人が「この地に学びの楽園を建設せん」という詩を残しているんですよ。川崎村に住んで半年くらいしたときに、うちの奥さんがこんなふうに言いました。「やっぱり岩手に来て住んでみると、岩手は深い思索を生む土地柄だね」っていうふうに言われました。そういうところで準備を始めて、オープン 1 年前には、皆さんに多く使ってもらえる図書館になるだろう、と私はほぼ確信していました。その理由なんですけども、今日もお話ししますけども、住んでる方に期待されて高い評価を得る図書館の条件っていうのは、まず今日、皆さんお集まりの方々のように、花巻に住んでいる方が「こんな図書館が欲しい、こんな図書館にしてください、こんな図書館だったら私は毎日でも行きます」という望みを、願いを持っているかどうか。これがなければできませんよね。あとは、自治体のトップが本気になって、図書館を実現しようと考えているかどうか。これが二つ目です。三つ目、準備に携わる職員が、非常に熱意があって、力を持っていること。もう図書館が大好きで四六時中図書館のことを考えていて、花巻の人の役に立つのであれば私は何だってやるっていうような職員がいるかどうか。この三つがそろえば、大きく期待を裏切れることは、私はないと思っています。川崎村は三つが揃ったんですよ。なので、利用実績がオープンしてから 2 年後に全国 6 位になって非常に嬉しかったです。何が嬉しかったかというと、村の方が喜んでるんですよ。「おらいの村の図書館は全国で 6 番目になったんだ。これは村の自慢だ」と。外からお客さんが来たら必ず連れて行く場所は図書館、というふうにですね。それが嬉しかったですね。村の人たちが自慢できる場所の一つになった。花巻も必ずやそうなると思ってますけども、そういう経験をしましたね。図書館っていうのは、多くの人が使えるところ、そして使ってる人が非常に楽しく使える空間である。そういうことを泉市の図書館で経験しました。天使のような司書の方がいて、小さな女の子が歩いてくるとその司書の方は、なんと自分も膝を折ってその小さな女の子と視線を合わせて話をしている。「ああ天使みたいな人だな」と思ったのが最初の図書館と私の出会いでした。何年かかっていいから、自分もこういう司書になりたいと思ったのが出会いでした。自分は大学で哲学を専攻してですね、世の中に生を受けた人がみんな幸せに生活できるような

社会システムっていうのは一体どのようになったら可能なのか、果たしてそういうことができるのかっていうので卒論を書いたんですけども、そしたら何と、自分が仕事をしている図書館が、その一つを担えるのだと気づいたときは、もう嬉しかったです。

次にですね、2 番目「公共図書館ってどんなところ」というところですけども、これから皆様と一緒に理想の図書館像をつくり上げていくっていう作業に移っていきますけども、今まで日本の図書館は、非常に暗い歴史を持っているんです、実は。戦前から、戦後間もなくですね。皆さんの中で、図書館の暗いイメージを思い出せる方いますか？いたら手を挙げてみてもらえますか？なんか嫌な思いをして職員が冷たくて、非常に暗い雰囲気、ちょっとでもおしゃべりすると図書館の職員に睨まれたりとかですね。職員の対応は役所くさいって書きましたけども、非常に事務的で冷たくてですね。「ハリーポッターの最終巻どこにありますか」と聞くと「15 番の棚です」と指さして終わるような。そういうような非常に事務的で冷たい。言葉遣いは非常に重要なんですよね。「全花巻市民に使ってもらいたいんだ」という気持ちを表していく。非常に重要です。後から写真で出てくる川崎村立図書館では、私は職員に、「入ってきた人全員にこんにちと声をかけて、迷ってるような人がいれば何かお探しですか、と必ず言うてください。それができない職員はこの図書館から出ていってもらおう」と言っていました。南相馬では「本のことを知らないのは経験が浅ければそれは仕方ないことなので、そういうことは怒らないけども、使う立場に立った対応ができない職員はすぐ辞めてもらおう。ここの図書館にはそういう職員は要らないんだ」と言っていました。南相馬で私はパワハラのデパートって言われましたけども、それぐらい厳しくやってきました。それは、図書館は誰のために存在する機関なのかというのをわかった職員がいないとそうならないんですよ。ですので、歴史を振り返ってみると、役所がつくって使わせてやってんだというような歴史は日本の場合長いんです。戦前は思想善導の一機関として使われた歴史があります。あと職員の服装も作業着みたいな服を着てフロアに出ていたり。作業着って作業するときに着る服であって、お客様の対応のときに着る服ではないですよ。あとはセンスの悪い資料としつらえっていうのもあります。一体誰のために買った本なのか、全然何か興味のわからない。いつ行っても同じ本が並んでいて古くて。僕と同級生なんかは、図書館に行って帰ってきたら、「早川あの図書館の壁の模様は何だ？」って言ったんですけども、そしたら壁の模様じゃなくて文学全集なんですよね。本に馴染みのない人は文学全集は壁の模様に見えるわけですよ。それほど変わっていない刺激的ではない。あとは、家具のレイアウトが決して使いやすいとは言えない。それはやはり、使う立場になって職員が考えられるかどうかですね。今はほとんどないですが 9 時に開館して 5 時に閉まる図書館がありました。その図書館に言ったことがあるんですけども「それって職員の出退勤時間じゃないの？」って。そしたら仕事終わった後使えないですよ。あったんですからね、そういう図書館。するとどうなるか、図書館なんていうのは僕たちには関係ない場所、一部の活字好きの人が行く場所、中高校生が勉強する場所でしょう、となる。そういう歴史を持っているんですよ。日本の場合。それが、東和の図書館もそうですけども、1990 年から素敵な図書館ができ始めて、2000 年代に移行して行きました。この東和の図書館は私のいた川崎村立図書館に似てるんですよ。東和の職員が川崎村立図書館に何回も来て、「東和にも何としてでもこういう図書館が欲しいんだ」と。20 年前ぐらいになりますけども、やっぱりそういう熱意がないと。日本の図書館は、人の強い意思が働かないと今日お集まりの皆さんが、ちゃんと評価できるような満足できるような図書館は、日本は難しいんです。欧米と違うところです。私が、大学で司書

の資格を取ったときに担当の先生がですね「日本の図書館は、イギリスと比較すると 100 年遅れている。」と。今でも堂々と 80 年は遅れてるかなと僕は思いますけども。それはただ、花巻の責任ではないと僕は思います。国県が余りに図書館に対して、無理解かなと思っています。

次にですね、じゃあ図書館が成り立つ要素ってどんなことなのか、というのをプリントに書いておきました。先ほど強調したように、まずは人です。これは職員のことですが、最大の鍵を握っています。皆さんの期待に沿えるような図書館をちゃんと実現して、いろんなサービス、例えば居眠りしてる高齢の方がいたら昔は「おじいちゃん図書館は居眠りするようなところじゃないよ」と言われていましたが、そうではなくて天気の良い日にうとうとしてるおじいちゃんがいたら膝掛けをかけてあげるぐらいでちょうどいいわけですね。そういうところがあるんですよ。宮城県の大崎市の図書館が入口にブランケットを用意しています。あとは、インターネットの時代になって電子書籍を新しい図書館でどうするのか。コロナ禍のこういうふうな時代になって新しい図書館は、コロナ対策も含めてどういう図書館を実現し維持していくのか。次に資料。これはもう図書館をスーパーマーケットに例えて言えば、資料・情報資源っていうのは「商品」ですから、これに魅力がなければ、繰り返しは来ないと思います。いくら施設が立派でも施設を見に行くことが目的ではありません。いつ行っても棚の前に立ったら、「実は私はこんな本が読みたかったんだ、こんなことが知りたかったんだ」と。皆さんが潜在的に全員持っている、「知りたい、学びたい、読みたい」という気持ちを、明確な形で引き出せるような図書館でないと来ないと思います。何も無いとこにはいきませんよね、自分のプライベートな時間を使って。次は、建物。この建物はやはり、「今日図書館に行こうかなどうしようかな」とって考えて迷ったときに、形も浮かんできますよね。「今日は図書館のカフェに行ってお茶飲んでから雑誌読もうかな」とかですね。形についてはですねやはり、図書館に入ってソファや椅子を見ると、「どうぞお座りください」という形をしているかどうか。10 代の人たちが行ったら「ここは 10 代の人のために用意した空間ですからね」というのが、言葉にしなくてもわかるかどうか。形が意識を決するって言い方がありますが、そういうふうな形をしているかどうかの方が大事だなと思います。最後に重要なのが利用者、使う人ですよ。図書館っていうのは、花巻の方の社会的共通資本である、共通財産ですから。図書館の年間運営費ってほぼ 100%税金なんです。映画にもなった、ニューヨーク市立図書館ってあるんですけども、日本の図書館と予算の桁が丸二つぐらい違うんですけども、ニューヨーク市立図書館は、寄附の収集部隊っていうのがいるんです。そっちは結構強調されがちなんですけども、税金の投入額も日本と 0 が二つぐらい違う。ニューヨーク市立図書館では、移民の方なんかを含めて、就活する人のためにネクタイやバックを貸してる。最近ではモバイル Wi-Fi を貸しています。電波なければインターネット見れませんよね。そんな活動も行っています。そういうふうに図書館は、誰でも使える場所で、新花巻図書館も、こういうふうになるといいかなって考えます。「僕は勉強は苦手だけど、勉強は大嫌いだけど、図書館には行く」

先ほどお話ししましたが新しい図書館をつくるのって 50 年に 1 度とかですね。私みたいに短い人生で 2 回もゼロから図書館つくる仕事やってる職員、司書っていうのはほとんどいませんので。図書館を学ぶときに、図書館法っていうのはなかなかよく考えられた法律なので、皆さんと一緒にちょっと見てみたいと思います。まず定義のところにですね、こんなふうに書いてあるんです。第 2 条「この

法律において「図書館」とは、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して…」これはいいですね。大事なのは次なんですけども、「一般公衆の利用に際し教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設で…」僕は授業でも何でも必ずここを言うんです。いいですか。調査研究、これレファレンスサービスっていうんですよ、図書館では。「種子島に鉄砲が伝来された時代に、3種類の日本が話されてたはずですけども、それについて書いてる本はないですか？」とかですね。次、レクリエーション。皆さんの中で、小説読むの好きな方はいらっしゃるでしょうか？手を挙げていただけますか？小説はこの三つの、教養、調査研修、レクリエーションのどれに当てはまると思いますか？例えば、私は教養を高めるために小説を読んでも人はいますか？いやいや、これあり得るんですよ。じゃあ、楽しくて読まないで寝られないから読んでもっていう人。要するに何が重要かっていうと、私はこの小説家が好き、読んでいて楽しい、わくわくして、もうね、ページをどきどきしながらめくったりとかですね。ここで重要なのはそういうふうに、自分の楽しみレクリエーション、レクリエーションというのは仕事とか勉強の疲れを癒やして、次の活力を養う活動っていうふうに言われますけども。ここが非常に重要なんですよね。楽しいおもしろいって自分の感覚を掘り下げていくと、自然な形で知的な場所に連れていってくれるのが図書館だと私は思っています。そこを全然理解していないと、つまらない図書館になってしまう。漫画なんか図書館に置くんじゃありません、とかですね、そういうふうになってしまう。次、第3条、図書館奉仕のところですね、「図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望にそい、更に学校教育を援助し得るように留意し…」とあります。花巻は花巻の土地の事情というのがあるわけですね。東京の杉並区と同じ図書館ではないわけですよ。住んでも人も例えば、年齢構成も違えば産業構成も違うわけですね。杉並区で話題になってる本が花巻になくたっていいわけですね。極端な言い方ですけども。公衆の希望に沿う、花巻の人が読みたい本があるところが花巻の図書館ということですよ。役所が一方的にこれ読むと教養高まるから、ってそんな場所に皆さん行きますか？図書館というのは自分の時間を使って、自分の意志で行くところですよ。そういうのは非常に重要です。はい次、第10条。これもまさしくこれから花巻で新しい図書館をつくろうとしてるときにですね、図書館法はこういうふうになっています。花巻で図書館をつくるときは、花巻の条例で定めなさい。国県に一切届け出必要ないんですよ。国県はこういうふうにしなさいと言ってはいけないノーコントロールの原則を持っています。なのでちょっと不思議に感じたことありませんか？「隣の町の図書館とおらんとこの図書館何でこんなに違うの？」と。これなんです。指導は一切受けない。もちろん文部科学省の指導も受けない。要するに自治に立脚しているということです。あとは、先ほどお話しした、花巻の新図書館は花巻の人の希望に沿った、花巻の土地の事情に合った図書館を花巻の人で考えてつくってくださいねっていう考えなんです。非常にすぐれた理念を持っている法律だなと思います。だから驚くほど違うわけです。税金の投入額も違う。館長とも話しましたが、どうせやるんだったら一関を上回る図書館にしたいよねと。一関を上回るためには資料購入費1億2000万あればいいかななんてさっき話してたんですけども、そういうことです。自分たちの図書館、自分たちの共有財産ですから。で、これから皆さんと話をしていくときにこういう基本的な図書館法も含めて図書館の役割と機能を一緒に学べていけたらいいなと思ってます。あと、図書館サービス。皆さんが図書館に来たときに、「実は私はこんなものが読みたかったんだ」と思える。もともと図書館が持っている大きな可能性を引き出すのは職員なんです。あとは図書館っていうのは何回も申し上げますけども、一体誰のために存在する機関なのかということですね。よく学生にも言うんですけども、みんなのうちのお父さんと

お母さんおじいちゃんおばあちゃんが払った税金で成り立ってるんだからね、と。使う権利を皆さんはもう持っているということです。

それではここからは、東北で身近な図書館の例を皆さんと一緒に写真を見ながら話題提供をしていきたいと思います。さっきお話ししたように、図書館はこうじゃなければならない、がほとんどない。1番厳しいのは無料の原則なんです。図書館の利用、資料の利用に関していかなる対価をも徴収してはならない、それぐらいです。それでは皆さんと一緒に、私が大学に来る前にいた、福島県の南相馬、20年前にいた川崎村立図書館、隣の紫波町図書館、一関の花泉図書館、東北で1番南にある白河市の図書館、宮城県大崎市の図書館の写真を見ていきたいと思います。



南相馬市立中央図書館 新図書館建築工事

まずはこれが、南相馬市立図書館の工事中の写真です。JR原ノ町駅から歩いて20歩と言っていました。



私この用地交渉もやったんです。用地交渉やった司書って僕だけかなと思いますね。勉強になりましたけどもね。建設部長と地権者もまわったんです。



工事が始まって図書館できてきたねっていうときに、ここに、完成予定図のパネルがありました。ここに女子高校生3人くらいが来て、パネルを指さして「こんな図書館できるわけないよね、あはは」って笑ってるんですよ。よっぽど近くに行ったら「何言ってるの、屋根見えてるじゃん」と言おうと思ったんですけども、そのとき感じたのは、役所っていうのは信頼されてないんだなと思いましたね。あとはもう一つ、その子たちがまさか、本当にこんな図書館ができるなんて想像し得なかったのかもしれないね。南相馬も決して順調にいったわけではなくて、「早川さん、また図書館だめになるんだってね」なんて言われたこともあるんですよ。皆さんに南相馬のリーフレットを配りますので、話を聞きながら見たら後ろの人にまわしていただけますか。



図書館に広場があります。これはアートサーカスです。ボランティアの方が震災後に来てくれて子供たちが楽しそうに見ています。図書館っていうのは、「本のある広場」とも言われるんですね。

アートサーカス

コミュニティが繁栄できる場をつくる ♪



なのでこういうふうなことができるんですよ。図書館を考えるとときに図書館のできること、可能性を限定的に考えないというのが重要なと思いますね。大学の職員と話していたんですが図書館で花の種を貸して、花が咲いたら図書館に持ってきてね、ということができるようなんです。



図書館の入口

「としょかんのTOMO」の方がいつもお花を
活けてくれます

南相馬の場合は「としょかんのTOMO南相馬」という組織があります。私がいたときは200人以上の会員で組織されていました。議会や市へ私たちはこういう図書館が欲しいんだから、実現してくださいっていう要望書や陳情書を出していました。学校図書館の整備に関してもすごかったです。この友の会は。それを市は次々実現していくんです。南相馬は学校司書を全校配置しています。全小中学校に学校司書がいるんです。友の会の方たちがこんなふうにいつも綺麗にお花を生けてくるんです。

先ほど対応の話をしましたけども、話かけやすい雰囲気を持っていないと、皆さんが求める知識、資料、情報資源と確実に出会えないということです。ぶすっとして冷たい感じじゃなくて、イギリスのライブラリアンとかのインタビューを聞くと、非常に穏やかで何でも私に聞いてくださいっていう感じでフロアにいるんです。イギリスの図書館なんかは、フロアデスクで「おばあちゃん元気になった？」とか「迷子になった犬見つかった？」ってしょっちゅう話ししているそうです。やっぱり地域に密着している。



貸出デスク

図書館の顔です(^_^)

これは貸し出しデスクです。図書館の顔ですから、やはり温かな雰囲気があって話かけやすい雰囲気を持っているのは、非常に重要です。建物だけ新しくなっても雰囲気が冷たければ、評価はされないのではないかと思います。

これが相談デスクですね。相談してるのは、埋蔵文化財の専任の学芸員です。相当専門的な質問に司書が対応しています。



ひとりしか座れない読書席 自分だけの空間

これは一人しか座れない読書席です。利用者の方に聞いたら、自分の家で本を読んでもるような感じですよと言っていました。



雑誌コーナー

300タイトルの雑誌があります



CDコーナー

「マニアックな品ぞろえ」が好評です(^_^)

つぎは雑誌のコーナー。立って読んでも、椅子に座っている方、テーブルを使っている方、ソファに座る方、これ新聞を読んでも方もいます。コロナのことがあってから、人との身体的な距離を保つという点では、従来の1.25倍の広さの図書館をつくることを視野に入れる必要があります。

次はCDのコーナーです。欧米・北欧の図書館と比較すると、ほとんど貧弱なんですけども、得に貧弱なのが音楽資料です。本当に悲しいほどじゃないんです。南相馬は徹底してそろえました。クラシック、ジャズ、ポピュラー、ロック、演歌、落語まであります。運動会で使う音楽まで徹底してそろえました。特に南相馬は吹奏楽のレベルが高いんです。子供の学校の中学校の入学式とか卒業式に聴いたらびっくりしました。もうものすごいレベル高いんですよ。ある日、女子高校生が「早川さん、南相馬のCDコーナーでロックの品揃えがマニアックだってインターネットで話題になってますよ」って教えてくれたんです。そういうので話が盛り上がるんですけども、これは非常に重要ですね。さっき言いました、レクリエーションに資するって書いてあるわけですからね。CDは立派な音声資料です。先日の20代・高校生のワークショップは、本当に勉強になったんですけども、高校生にですね、どうやって音楽聞いてんのって聞いたんです。スマホで定額とかで聞いていると思ったらほぼ全員CDで聞いているんです。好きなアーティストの情報をYouTubeで見ても、これは手元に置いておかなきゃって思ったものをCDで買うんですね。



新しいCD・DVDコーナー

図書館は本だけじゃありません！（これ重要）

DVD、映像資料もあります。



子ども図書館入口

チラシやパンフレットが無料で持ち帰れます

あとはですね、図書館っていうのは、身近にある情報センターっていうふうに言われますけども、インターネットでいろんな情報を得るということと、観光情報からいろんな生涯学習関係の講座の情報とかですね、紙とデジタル両方で見れるっていうのがやっぱり重要だと思うんですよね。南相馬はハイブリットライブラリーを目指すっていうふうに言ってたんですけども、片方では、十分ではないと思うんですよね。



ようこそ子ども図書館へ ハリーがお出迎え

子供のコーナーだということふうに、どろんこハリーのぬいぐるみがお出迎えしてくれます。これ2週間借りられるんです。



こんなふうな博物館のサテライト展示も行っています。図書館はいろんな可能性を持つてる機関なんですよね。

ホンモノをさがせ！ 市立博物館との共催



子供が 1 人でいる時間は非常に重要というふうに言われます。

子ども図書館は、私の居場所

仲のいい兄弟の写真ですが、女の子は DVD を見ている隣でお兄ちゃんが本を読んでいます。

このぬいぐるみもバーコードがついていて 2 週間借りられます。

ここは図書館で唯一靴を脱いで入る絨毯の部屋です。これはロディーですね。ロディーの後ろにバーコードがあるんですよ。それで、借りられるんですこれも。子供たち自分の好きな色ってやっぱあるんですよ。ある日、南相馬で、オレンジ色のロディーあるんですけども、「僕はオレンジ色じゃなきゃ絶対やだ」ってデスクの近くで言っている子がいて、お母さんが「色なんかどうだっていいんだから、早く買い物に行かなきゃいけないから早く借りなさい」って言っていましたが、やっぱり子供って好きな色あるんですよ。



名人戦（真剣です） 子ども図書館にて

あとこれは子供図書館で子供たちが集まって将棋をしている様子です。もう最初からこういうふうにするという前提で将棋盤がある。こういうのが当たり前の利用風景としてあるので「なんだ図書館で将棋なんかやってけしからん」っていうのはないですね。ただ一つ苦情がありました。図書館の職員間では名人選と呼んでたんですけど60過ぎの男性が将棋をやって、「ちょっとまった」とかですね、声がやかましいっていう苦情はありました。そのときに、名人戦はしばらくの間テラス席でやってもらおうというふうになりました。

この親子はもう、朝図書館でお弁当食べるって決めてきてるわけです。震災後です。こんなふうに南相馬のテラス席は、飲食OK。カップヌードルだけは遠慮してとしています。南相馬の図書館オープンする前に、館長を含めて職員全員で、この図書館では何々しちゃいけませんっていう張り紙を貼らないでやろうっていうふうになりました。じゃあ、飲食オーケーでお弁当のカラとかペットボトルを置いていくかということ、ほとんどありません。片づけた記憶はありません。マナー問題があったのは、お酒飲んできた人がいて、その方と一緒に交番に3回行きました。



テラス読書席でお勉強です

テラス席で一生懸命勉強している様子です。



こちらはティーンズコーナー。こういうふうに重要なのは、いろんな使い方ができる。



おしゃべりしたい子もいれば、必死になってこうやって勉強したい子もいます。ただですね高校生たくさん来てくれたんですけども、こんなふうに一生懸命勉強してた子は高校生のうちの割合から言うと 10%もいなかったかもしれないですね。多くても 15%。



ティーンズコーナーのひとことカード

「恋の悩み」もあります

これは、ティーンズコーナーにある一言カードというコーナーです。やっぱり今の10代の人たちとコミュニケーションをとるには、今の10代の人たちが何を考えて何を求めているかがわからないと難しいですね。ティーンズ担当がこうこぼしたことがあったんです。「副館長、館長があれやれこれやれって言うけども、私10代じゃないのでわかりません」って。10代じゃないのは重々わかってやってるんですが、どうすればいいか。一言カードっていうのがあるんですが、図書館への要望とかそういうものを書いて、こういうCDあったらいいなとかですね。ね、こういうふうなことも書かれます。「勇気を持って好きな人に告白したらフラれました。死んでもいいですか」と。そういうコメントに職員が回答書くんです。この回答は、館長まで回るんです。その死んでもいいですかっていう回答はシンプルですね。ものすごく大きい字で「だめ」と書きました。あとはこういう書き込みがありました。「進学するための本がたくさんあるのに、就職で使える本が1冊もないじゃないですか」とありました。そのとおりなんです。さすがよく見てるんだなあと思いましたね。次々、仕事を選ぶのに役立つ本を足していきました。



ティーンズコーナーの棚

10代の利用者の評価は？

これがティーンズコーナーです。



読書テラスでお勉強 いや ゲーム対戦中です。
お静かに

何しているのか、対戦ゲームってやるんですよ。もう静かです真剣ですよ。



女子は元気！ 男子は照れる(^_^)

あとはですね、これ写真撮っていいって言ったらですね「いいですよ、綺麗にとってくださいね」と女の子たちは言うんですが男の子は顔を隠しています。こっちはカフェなんです。南相馬は福祉団体に呼びかけてハンディを持つ方でも働けるカフェ、っていうのでやってるんです。どこかの図書館みたいにスターバックスではないんですよ。非常に評判いいです。



2階のコミックコーナー

これが2階のコミックです。コミックって実は自分より少し上の世代がすごく詳しいですよ。



「大人の嗜み」コーナー
カッコいいとはこういうことさ！

あとは、「大人の嗜み」というコーナーもあります。20代の男性の司書がつくったコーナーです。30代から60代70代までの男性をターゲットにしてつくったコーナーです。



こういうコーナー図書館で見たことがあります？。本屋さんではあるんですよ。南相馬って役場の職員がたくさん使う図書館なんですけど、市役所の職員で図書館のカードを持ってないのは恥ずかしいと言われるくらいです。20代の男性の司書が自分で考えたんですよ。



料理本コーナー まあ美味しそう

あとは暮らしのコーナー、料理の本、こういうふう to 本の表紙が見えてライトで照らしています。



料理本のとなりはダイエット本です。
気が利いてる？

これが暮らしのコーナーです。南相馬は、暮らしのコーナーに1人、専任司書の担当がいるんです。担当が自分で考えています。料理本の隣にダイエット本置いてるんですけど、気がきいているのかどうかわかりませんが、これは担当司書が考えてるんです。あとは僕が指示をしたのは、料理の本って、魚料理・肉料理・野菜料理とか分けたほうがいいよねって言いました。華やかですよ、やっぱり暮らしに密着したコーナーっていうのは。さっきも言いましたが、借りずにはられない、というところまで目指さないと、やっぱり皆さんに評価はしていただけないのかなと思いますね。もっと厳しく言えば、質の高いサービスです。



司書おすすめ この一冊



特集 「いま、輝ける自分」

「司書お勧めこの一冊」っていうコーナーです。南相馬は司書しか採用しません。ここにおすすめコメントをしてですね、これは利用者からリクエストがあったんですが「司書って、プロフェッショナルだからね」っていう重圧をかけていました。

南相馬はですね、皆さんご存じのとおり震災があって何がしんどかったか。もちろん津波でも何人も命を落とされました。問題はその後ですね。東京電力の第1原発のことがあって全市民避難させられたわけですよ。この担当司書は「いま、輝ける自分」っていうコーナーを考えた理由にですね、多くの人が傷ついて下を向きがちだけど、そういう時期に図書館も再開したし、もう1回顔を上げてですね、自分自身が輝けるような、そういうコーナーにしたいっていうことで考えたんです。



これも企画コーナー 「これで憲法がわかる」

次は「これで憲法がわかる」コーナーです。図書館法にも、時事に関する展示をと書いてあるんですが日本の図書館これもやらないですよ。憲法に関係ない人はいないと僕は思ってるんですが。憲法改正が必要だっていう考えの本がこちら。いや、必要ではないっていう考えの本はこちら。憲法に関する本ってものすごくたくさん出てるんです。憲法改正だけに絞っても、ものすごいです。図書館の役割は何か。憲法改正必要ですよと主張してる人はこういう考えを持っています、必要ないと主張する人はこういう考えを持っています、と多様な選択肢を提示することなんです。政治でも僕はそうだと思います。南相馬は、政党の機関誌全部置いてます。最後の最後まで持ってきてくれない政党があつて議員さんに言いました。ほかの政党全部無料でおきますって言うてくれてるんですよ。あなとのところはどうしますって。置くなら全部置かなくてはいけないので、早く持ってきてって言ったんですけども。そんなふうに、若い世代から高齢の方まで身近に、政党が何を考えて何を目標しているのかっていうのを見れるっていうのは重要です。選挙のときだけ名前を大きい声で言うんじゃないで。子供たちだって、政治が身近になるっていうことが重要なわけですよ。ね。憲法も同じかなって。何で日本の図書館これやらないのかなって思いますね。



「いわさきちひろ」の絵 これも1ヵ月借りられます

あとは、絵も1ヵ月借りられます。近くの、床屋さんとか飲み屋さんがよく借りていました。ある時、床屋さんがですね、借りていった絵をすぐ返しに来たんです。どうしたのって聞いたら「早川さん、この絵ハイセンスでうちの店には合わなかったから別なの借りていきます」と言われたことがありました。



洋書コーナー 「進撃の巨人」の英語版もあります

日本の図書館が悲しいほど遅れてる分野が洋書です。日本語以外を母国語とする方もたくさん住んでるわけです。その方たちのサービスや教育をどうするんですかね。ひど過ぎると思うんですよ、これに関しては。子供だっていらっしゃる方もいるわけですよ。両親が日本語を話せない方もいますよね。例えば、中国語で書かれた日本語の学び方の本、中国語で書かれた漢字の書き方の本、必要だと思うんですけどね。英語圏、北欧ではすごいですよ。びっくりするぐらい日本の本とかありますからね。フランスなんか日本のコミックがこれでもかってぐらいあります。花巻の新しい図書館でも取り組んでほしいなと感じるところです。

はい。これ旅と地図のコーナーです。



旅と地図コーナー



日本全国の観光パンフレットと
30か国の海外のパンフレット
もちろん無料で差し上げます(^_^)

先ほど図書館は、気軽に寄れる街かどの情報センターの機能も持っているとお話ししましたが、日本 47 都道府県全ての観光パンフレット、海外 20 か国の観光パンフレットが無料で持っているコーナーです。これは図書館は、やはり信頼性の高い知識と情報を提供するっていうのが重要ですので、全部、各都道府県の観光担当主管課に連絡しています。海外はまず大使館です。この前、紫波の図書館に行ったら、県内全市町村の観光パンフレットを置いていて配布していました。司書の方と話したらですね、今、コロナの時代なので近くだったらいけますよね。すごくよかったので、これ常設にしたほうがいいよ、ずっと続けていったほうがいいと伝えました。場所は郷土資料のコーナーとか、あとは若い世代でも、町の歴史とか調べられるんですよ。僕なんかね、仙台にいたとき沢内は憧れの地でしたからね。僕の先輩なんかは沢内に調査に行くって言いましたからね。沢内村に。深澤さんの記念資料館ってあるの皆さんご存じでした？パンフレットもらってきたんですよ。これは無料です。1人何部なんて、せこいことは言いません。無くなったならもらえばいいわけですから。ある日デスクにたくさん観光パンフレットを持った高齢の男性が来て楽しそうに「うちの老人クラでここに行くんだ。参加した人にこれ配るんだ」とおっしゃっていました。年間これをやる予算は7万円前後でした。郵送料だけです。観光パンフレットを配るっていうのに「どうしてですか」っていうところないので。似たような事を言ったところはあるんですけどね、東北のある県ですけども。「何のために使うんですか？」って。観光パンフレット何のために使うんですかって、あなた何の仕事してるんですかって言おうと思ったんですけどね。だからあなたのとこの観光客少ないんじゃないですか、とは言いませんけども。



車の本のところにはモデルカーがずらり

次の写真です。車の本の前には、車のモデルを置いています。これ値段高価らしいんですけども。



「いま 地域再生を考える」コーナー

先ほどお話ししたように南相馬は、原発事故で土に放射性物質が付着してしまって、何年も作物やお米が作れなかったんです。産業の担当司書に相談されました「もう、どうやって本を選んだらいいかわかりません」と。僕はこういうふうに言いました。一つは、今までと何ら変わらない本の選び方をすること。もう一つは、震災後に劇的に変わったという視点で本を選べるんじゃないかと。放射性物質が土に付着したときの対処方法が書いてある専門雑誌がここにあります。南相馬の方にとっては必需品なんですよ。



一階の開架フロア 知識がみえる！

図書館の特性の一つに知識、情報が可視化される。目に見える。インターネットとはやっぱり違うところかなと。「私はこんなものが読みたかったんだ。こんなことが知りたかったんだ」っていうのが、目の前に現れるということですよね。可視化されるというところが重要な。



小学生の施設見学

次です。これはですね、今の小学生いいですよ。この社会科見学のボードを持って来るんですよ。これ、南相馬の子供たちは図書館のお姉さんが本を持つと、本を読んでもくれるって思ってるんです。条件反射みたいになるんです。習慣って違うなと思いましたね。



次の写真ですが、藤の花の季節のときはこんなふうな環境で本が読めます。

これはボランティアのプロのクラシック演奏家が演奏会をしています。図書館の中です。



キャンドルナイト

ライブラリーコンサートと同時開催 素敵でしょ！

これをやってるときに、外ではキャンドルが並んでいました。震災の時、一時はどうなるかと、絶望を突きつけられました。もうここで命を落とすかなあとまで思いました。あれで2号機が爆発してればどうなったかわからなかったわけですよ。そういう時に南相馬の方と一緒に図書館の再開をお祝いできたのは本当に忘れられないですね。



もう一つこんなふうに言ってくださった方がいます。「避難先から帰ってきて、図書館に明かりが灯ったからこれで私は日常生活を取り戻せるって思いました。これから私は図書館に通って自分の日常を取り戻します。」と。図書館っていうのは、ただ本を貸す場所ではなくて、いろんな住んでる方よりどころの一つです。そういうふうになれるかどうかっていうのは非常に重要だなって感じます。そう利用者の方に教えてもらったなと思いました。



一関市立川崎図書館

1998年12月12日オープン

次は川崎村立図書館、現一関市立川崎図書館です。当時 5000 人の村です。今は川崎地区に 4000 人いないかもしれませんね。



新しい本コーナー 入口付近



雑誌コーナー 舟のかたちをしています

船の形をした雑誌コーナーです。



絵本コーナー 絵本の魅力は表紙です！！

子供のサービスにはすごく力を入れています。



絵本コーナー 絵本の魅力は表紙です！！

これは『11 ぴきのねこ』のぬいぐるみです。3週間借りられます。一関は本に関しては3週間無制限なんです。冊数制限していないんです。冊数は借りる人が決めます。



開架フロア 明るくて温かみがあります

よく「広いですね」って言われるんですけども、全然広くないです。東和の図書館くらいですかね。

これは子育てサークルの人がバザーで寄附をくださったお金で買ったおもちゃです。20万円以上します。

次は紫波の図書館です。よく職員に言ってたのは、お母さんが子供3人連れてきたら利用申込書かけないでしょ、と。黙って見るんじゃなくて子供抱っこするか、代わりに書くかしろと。そういう柔軟性に欠けるところがあるんですよね、図書館の職員って。

次の写真でも、カードを渡すとき職員が身を乗り出して子供に渡してますよね。こういうところがねやっぱ違うんですよ。鍛えられているんですよ、紫波のスタッフは。

本を渡すときもちゃんと角を揃えて持ってきた袋に入るようにやってるんですよね。徹底されてます。やっぱり利用の多い、評価されている、期待されてる図書館には必ず理由がある。逆に言うと、相手にされてない図書館は必ず理由がある。数字で出てきます。数字は嘘つかないですからね。

たくさんの人に使われている図書館っていうのは、いろんな年齢の方が満遍なくいらっしゃる。0歳児から高齢の方まで。その方たちがそれぞれ自分の目的を達せられるかどうか。自分のお気に入りの場所を見つけられるかどうかっていうのは大事ななっていうふうに思います。



楽しそうに本を選んでいきます



一関市立花泉図書館

2013年9月13日オープン

これが一関市立花泉図書ですね。ここで写真撮ってる可愛い女の子は僕の娘です。



入口にはお酒の企画展示！

すごいのは、入り口入ると酒瓶が飾ってあります。地元のお酒の展示、なかなかやるなと思うんですけども、これ、大事なんです。この図書館、何かあるな、何かおもしろそうって思わせてくれるのは大事なんですよね。これ花泉は上手なんですよね。



日本にもあった！こんな美しい図書館。

次の写真ですが、やっぱり綺麗だなと思いますね。図書館の司書によく「センスを磨きなさいよ」と言っていました。センスの悪いところに人來ないからね。例えばさっき紫波の話もしましたが、なぜ紫波が興味深いかという住民の要求と社会的要求両方ちゃんと捉えているんです。また社会の変化に敏感に反応している図書館なんです。図書館は成長するという有機体であるというふうにも言われます。



利用者も職員も楽しそう！

これ見てください。袋がもう弾けるぐらいにパンパンに本が入ってますよね。これは僕と一緒に働いていた司書なんですけど、まあ楽しそうですよね。やっぱり利用してる人が楽しいと職員も楽しいですよ。どっちか一方だけ楽しいってのはちょっと危ないですよ。最悪なのが職員だけ楽しいっていうやつです。



白河市立図書館

2011 年 7 月オープン

次は白河市立図書館です。



ヴァーチャル・リアリティー本棚！

素晴らしいです。新しい本をコピーしたバーチャルリアリティー本棚があります。遠いですが、近くに行くことがあれば必ず見たほうがいいです。プロフェッショナルの司書はこういう仕事をするって見えますから。



1 階新聞・雑誌・児童コーナー



お話コーナーもぬいぐるみも大きい



魅力的な新刊棚

この新しい絵本の棚を見ただけでわかります。
色んな情報をもとに選び抜かれています。



司書の選書力！

これは西洋哲学の棚ですが、下手な大学図書館
顔負けですから。僕が公共図書館で恐らく日本一
かなと思ったのはコミックです。戦後のコミック
の出版状況を反映させてやるっていう目標でや
ってるんです。ある年、1年間のコミック買う予
算が400万だったので、さすがに大丈夫かと聞い
たら、「はい、計画的にやっていますから」と言う
んです。すごいですここは。日本ではそれほど多
くないプロフェッショナルの司書集団の仕事が
見れます。



あなたを救うのは あなた。本とだよ。
大崎市図書館

次は大崎市です。オープンしてまだ2年、3年
経ってないかな。



学ぶことは、楽しむこと！



日本最大級の広さ。

大崎市図書館ティーンズ・コーナー。

その特徴の一つは、2階が全部ティーンズコーナーなんです。びっくりしました。これ端から端までティーンズ用です。これは職員が力を持っていないとできません。ここが中高校生と一緒につくっている棚ですが、もう素晴らしいなあって思いました。



ティーンズ・コーナーのシャイなふたり

この子供たちがまたいいんですよ。みんなの写真撮らせてくださいって聞くといいよと答えるんですが、シャッター押す直前に顔を伏せるんです。すごく人懐っこい子供たちです。



図書館という日常

図書館っていうのはよく日常っていうふうに言われますけどもやっぱり、花巻でも、新しい図書館ができればこういうふうな利用風景が日常的に見られる。図書館が家族同士の絆も強めまస్తుっていうふうに言われます。皆さんと一緒にこれから理想の図書館像をつくり上げていければいいなと思います。

今図書館の写真を見てきたように、図書館の特性の一つは可能性を提供する機関ということです。刺激的で楽しい場所だっていう話をしました。本のある広場。北欧の図書館を見てると本当にそう思います。一生涯学び続けられる場所でもあるわけですよね。英語圏とか北欧は生涯学習ってよく言いますよね。生まれてから亡くなるまで学び続けるという前提と考えると、小中高ってほんの一時期ですよね。日本の場合は、勉強＝学校っていう考えが余りに強いんです。僕は学生によくこう言います。「学力の評価は人格の評価じゃないからね。縮こまってる必要なんかないんだから。」と。勉強しなくていいということではないですよ。そうすると学生は、先生勉強しなくていいんですよねって言うんですけども、そうじゃないんですよね、一生涯学び続けるというのは。なので、アメリカなんかは小学校がない田舎でも図書館はありますからね。あとは将来を担う子供たちのことをやっぱり視野に入れていくということです。あとは資料に福島出身の詩人の長田弘さんの「元気のいい日をつくり出す図書館」という文章を載せておきましたのでご覧ください。あと、アメリカは図書館先進国です。病院に行くとお金取られるのに図書館では絶対とらないんです。ジョージ・ワシントンの一般教書演説ですが、「知識はすべての国において、国民の幸せのもっとも確かな基盤である」と言っています。オバマ大統領も図書館の司書の方に感謝のメッセージをしょっちゅう出してましたが、日本のトップからはどうですかね、図書館って聞いたことはありますか。はい、じゃ、私の話は以上とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

続いてですね。質問があれば、せっかくですので、お受けしたいと思います。

質疑応答

- ①先ほど日本の図書館がイギリスの図書館よりも 100 年遅れているとお話がありましたが、外国の方に対する支援とか足りないとかもそうだと思いますが、今日は無理だと思いますが、ぜひ今後のワー

クシヨツプの中でお話しなり資料なりを教えていただければと思います。

→20代、高校生のワークシヨツプでも話が出て、具体的にどこが遅れているんですか？と聞かれました。遅れているところを掘り下げるのではなくて、今おっしゃられたように、実践例が少ないので資料用意できるかどうかちょっとお約束はできないんですが、こんなふうにしてるっていう事例、南相馬もそうですが、あとは外国の図書館の例とかをお話ししていきます。ありがとうございました。そうやって皆さんと一緒にやっていければいいなと思います。ありがとうございます。

②以前先生のお話を聞いたことがあり、図書館ってこういうところなのかと目から鱗のような感動をしていたんですけども、川崎とか一関市とか紫波町とか様々図書館をめぐられて、先生は花巻市の図書館基本構想はご存知でしょうか、私は基本構想を読みました、花巻市のこの基本構想ってすばらしいなと思いました。先生はどのようにお考えになっているかお伺いしたいんですけど。細かいところ、ソファの並べ方とかは図書館ができる前から考えなければならないとは思いますが、やっぱり図書館をつくる時に理念とか基本構想とかはすごく大事な点と、先生のお話を聞きながら、花巻市の基本構想と重ねて拝聴したんですが、花巻市の基本構想を本当に実現するようにできれば図書館は素晴らしいものができるんじゃないかなと、期待してワークシヨツプに参加しました。先生が基本構想を読んでいらっしゃるのであれば、ご意見をお伺いしたいです。

→結論から申し上げます。同感です。同じように考えます。理念を具現化していく段階になってきているということですね。皆さんのご意見を聞いてその理念とかに、少し手が入るっていうのもあり得るのかなと思いますけども。基本構想っていうのはおっしゃるように理念ですから、それをいよいよ、具現化していく段階に入ると。理念だけでは、お腹いっぱいになりませんので、問題はここから先だだと思います。ただ私は、皆さんのような方がたくさんいらして先ほどお話ししましたけど、私たちはこういう図書館が欲しいんだと、この理念を形にしてくださいという声が届いて、一緒に役所と歩んでいければ、いい図書館はできると思います。非常に楽しみにしています。

③今日は貴重なお話をありがとうございました。私は学生時代に仙台に住んでいて、メディアテークに行ったときに、図書館ってこんなに面白いんだと思って、そこでアルバイトをするくらい好きで通っていました。花巻の図書館はほとんど行っていなかったんですけども、仙台に行ってから図書館って可能性があるんだなと思って、仙台だけ特別なのかなと思ってたんですが、先生のお話をうかがっていたら、図書館の可能性って色々あるんだなと感銘を受けました。ここからの質問は先生もしくは市の方に伺いたいんですけども、今回ワークシヨツプで、全5回の1回目ということで、このワークシヨツプ自体の意義とか目的とか、せっかく多くの方がいらっしゃって色々まとまった意見を市の基本計画とかがある中で、先生もイメージを具現化していくとお話をされていましたが、ワークシヨツプで集まった意見はこれからの図書館の構想にどう関わっていくのか、立地とか、タイムスケジュールとかもいろいろあるんでしょうけども、このワークシヨツプの意見がどう反映されるかわかれば、全5回心を込めて参加できると思うのですが、いかがでしょうか。

→私（生涯学習課菊池）のからお答えします。これから全 5 回行うワークショップの意義ということなんですけども、そのとおり基本構想というところまでは、大分前になりましたけどもそこまででき上がっております。それからですね、しばらく、3 年ぐらい経ってきてるわけなんですけども、さらに、皆さんから、新しいご意見を聞いて、前組み立てたものはそのまま活かしながら、新しいご意見を聞きながら、今度の基本計画をつくるために活かしていきたいというのが目的となっております。そのために皆さんにお集まりをいただいたというところでですね、たくさんご意見いただきたい、という気持ちで開催しています。こういった答えでよろしいでしょうか。

→私は何のプロでもないですが、いち市民としていい図書館をつくるために一生懸命意見させていただいてそれが少しでも叶うのであれば、一生懸命参加させていただきます。ありがとうございました。

④先生どうもありがとうございました。先生、コロナの時代の図書館のあり方について、若干触れましたけれども、今後ですね私たちが新しい図書館を進めて行く際にですね、最近の図書館のプロの間でですね、コロナを見据えた図書館像っていうのはどういう論点で議論されてるのか、何か参考にあるような論文があったらぜひ教えてください。それとですね、お話の中でニューヨーク市立図書館というふうに僕は聞いたんですけども、これは、ニューヨーク市立図書館ということですか。それとも、私はニューヨークの図書館っていうと、ニューヨーク公共図書館というイメージが、真っ先に浮かんで、あれは公共と名乗ってますけれども、NPO 法人の運営なんですけれども、ニューヨーク市立図書館とニューヨーク公共図書館とは別ものなんでしょうか。その辺を聞かせてください。

→はい、ありがとうございます。まず最初のコロナの関係ですが、図書館の職員や図書館学の研究者等ですね、幾つか論文も出てきてますけども、コロナの時代になって、図書館は何ができるのか。簡単に閉めてしまった図書館もありますけども。まだいろんな情報が広く行き渡ってないときは仕方なかったと思うんですけども、こういう指摘がありました。こういうときだからこそ、書店の売り上げもアップしているのに、なぜ図書館が閉まってんだと。コロナになったら何もやれないんですか、というような指摘です。あとは 1 番話題として多いのは、電子書籍の貸し出しサービスやれるでしょう、と。公共図書館で。こういうときだからこそ、多くの方が求めているのは電子書籍の貸し出しサービスじゃないですか、と。僕はこれはチャンスだと捉えていて、今までは、1 冊の電子書籍を図書館で貸し出すと、契約を締結時すごい高いお金を要求されたんですが、お互いに出版社でも無料で見れたりとか出てきたので、チャンスっていうふうに捉えています。もう一つは施設的にはですね、このコロナがどういうふうに推移していくのかっていうのを見ながら、設計等に反映していくっていうことが求められるかなと思います。先ほどですね、従来の施設の 1.25 倍っていう話をしましたけども、日本の図書館は小さ過ぎます。ものすごく小さい。中長期的に考えていないのでオープンして 7 年目になったら閉架書庫いっぱい、なんてことは欧米ではありえないです。あとは、図書館は成長する有機体です。皆さんの意見、見識をお借りしながら、より良いものを目指していければいいと思います。答えが唯一これだっ

てのはちょっと難しいかなと。もう一つですね、ニューヨーク市立図書館と私申し上げました。このようにも言われます。ニューヨークパブリックライブラリー。NPOとおっしゃいましたけども、実はですね、ニューヨークパブリックライブラリーだけが、アメリカの図書館の中でも非常に独特の形態を持っているんです。NPOではないんですよ。先ほど言ったように、税金も相当に投入されているんです。なのでニューヨークパブリックライブラリーと呼ばれるんですけど、中間ぐらいですかね。どっちかと言うと。ただ全米の図書館でもあんなに何億って毎年寄附集めてるのは独特だなあとと思います。近代的な公共図書館の発祥はアメリカって言われてるんですよ。なぜパブリックライブラリーと呼ばれるのか、理由の一つはですね、最初は集会所に人が集まって、自分たちのまちをどうしていくか話し合いをしていたところに、そういう話をするときは参考資料がなければならない。じゃ、自分たちでお金出し合って、会員制にして本を貸し出していこう、というのが始まりです。『未来をつくる図書館』なんかでも詳細に報告されていますが、そう捉えていました。ニューヨークのような図書館のような形態っていうのは日本ではほとんど見当たらないなと思っています。よろしいでしょうか。

→ありがとうございました。僕の誤解かもしれませんが、ニューヨーク公共図書館は、寄附と税金で賄われてるということで、経営主体はですね、私はNPO法人だと思い込んでいましたけれども、確かめてみます。それとさっきのコロナの時代ですね、今盛んに論争があると思います。具体的にこういう論文があるんだというのを、もし教えていただければ、ぜひ読みたいんですけどもお伺いできますか？

→ちょっと研究所に帰って調べないと、今中途半端なことは言えないですが、今でも CiNii というサイトでですね、国立情報学研究所のですね、「図書館 コロナ」っていうようなキーワードを打ち込んでも出てきます。まずは CiNii がいいかなと思いますけども、図書館の方に聞くとわかりますから、そこでも探すことができます。これは画期的な論文だというのは私はまだわかりません。次々出てくると思います。CiNii もしご覧になったことがなければ、見てみるのもいいかなと思います。CiNii か J-STAGE ですかね。よろしいでしょうか。

質疑応答終了

生涯学習課菊池

はい、たくさんのご質問、ありがとうございました。我々が予定している時間から大幅にオーバーして、お時間ちょうだいしてしまい、大変申しわけございません。活発な質疑応答いただきました。大変ありがとうございます。改めましてご講演をいただきました早川先生に、拍手でご礼をしたいと思います。先生、大変ありがとうございました。

プログラムについては、以上になります。事務連絡したいと思います。一つお願いします。アンケート用紙をお配りしております。今回参加した感想など、ご記入いただきたいなというふうに思います。それから次回です。次回は、9月13日、同じく日曜日であります。次の場所はですね、今度花巻駅前のなはんプラザで開催いたしま

す。時間ですが、9 時オープンと同時に、受付開始といたしまして、開始は 9 時 15 分から予定をしております。車でのかたは駐車券をお配りいたしますので、隣の駐車場にとめていただければと思います。なお、バスで移動の方は、また乗って花巻図書館まで移動して解散になりますので、忘れ物がないようお願いいたします。それから、ここで、解散という方も、気をつけてお帰りください。以上で図書館ワークショップ第 1 回目、以上で終了としたいと思います。皆さん大変ありがとうございました。